

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 6 月 30 日
事業所名	グループホームあさひ名北
ユニット名	2370301570
事業所番号	1 F
記入者名	職名 ホーム長 氏名 小倉 加代子
連絡先電話番号	

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	理念はグループホーム独自の理念を作っている(わたしたちのグループホームあさひ名北とは…わたしたちのグループホームあさひ名北では…に揚げられている)。利用者様が地域の中で生活出来るように支援しています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	事業所の廊下に掲示されている(家族や職員の目に付きやすい場所に掲示されている)。毎月1回の全体会議と週1回のカンファレンスで一通り行っているが、唱和は行っていません。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	パンフレットとホームページを作成し案内している、家族には入所時に、当ホームの理念の説明を行っている。二ヶ月に1回の運営推進会議を行っている。廊下に掲示している、駐車場にも町内掲示板を設置して回覧板とともに掲示しています。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	散歩中の挨拶に心掛けている。行事等の参加をお願いしている。自治会を通じて、新聞に掲載して貰っている。近所の子供さんが遊びに来られたりして利用者といれあいをしています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	自治会の組長として参加しています。自治会の桜祭り・町内一斉掃除参加。お祭り等に参加し、地域の方とのコミュニケーションをとり、交流につとめています。		最近ではホーム行事にマジックショー、フルート演奏等を地域の方に行っていただいています

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて、特に自治会・民生委員と取り組んでいる。又ご近所の方もハイタル測定に来られている。救命訓練にも参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月1回の全体会議時に報告。利用者によりよいサービスを提供する為に、評価内容を職員に浸透するよう努力している。 年2回、本社の合同研修会に参加しています。		サービス内容を職員が的確に把握し、よりよい介護を提供する。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の決定事項を全職員が把握し、サービス向上に努める。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみで、他の事は行っていない。		今後、もう少し積極的に現場の実情や考え方を伝える機会を作りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	NPO法人を通じて、入所時に行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者、管理者は虐待防止法の内容を理解している。		今後、虐待の危険があるようであれば、早期に発見し、カンファレンスを行い速やかに対応したいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明後、再確認を行っているが、疑問に思われたら、いつでも聞いて貰うように説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。訴えあれば、カンファレンス。連絡ノートで対応する。開かれた事業所作りに努める。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の生活等をスナップ写真に取りホーム内に掲示しています。家族への連絡は、利用者様の状態、変化があれば、その都度、連絡する(カルテに記載あり)。面会時に必ず状況の報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置があり、いつでも訴えあれば傾聴するようにしています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の全体会議で全体の意見交換、又、各フロアでの意見や発案等の機会を作っている。情報連絡ノートにも記入しやすくしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>より働きやすい環境を提供して、日勤帯時間内には基準以上の職員配置となっている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>極力、職員の異動を避け、やむおえない場合は代替職員の配置を早急に行うっています、基準以上の職員配置をしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の施設外研修、ホーム内での勉強会を行っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方々を行事に参加して貰っている(交流をはかる)。スタッフの用事等で他ホーム訪問時や買い物等に短時間ではあるが訪問しコミュニケーションを取る。ヘルパースクールより研修生を受入れています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会話を多く取る(精神面のストレスある為)。挨拶(笑顔で)気持ちよくする。早めにDr診察をお願いする。ホーム犬を飼うこと、年2回の懇親会を行っています。		休憩場所の確保が必要。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況を把握し、各自の能力にあった勉強会や向上に向けた研修会参加を促している。スキルアップの為に別途休日もあり、費用の一部負担も行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に面会し利用者様、ホームの内容や不安に思われている事等聞く、		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にご家族の方にホームでの利用方法の説明を行う、不安事項、心配事を聞き出している、又いつでも聞いてもらえるように窓口を一本化し、フォロー加電しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用者様、家族の要望をもとに、何が必要か見極め、必要に応じて、他のサービスの利用をすすめている。		訪問マッサージを施行してる
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入所を利用して頂いています。利用開始前から、顔なじみの関係をつくるようにしています。		
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時間をかけて会話するようにし、一人で居ることがないようにする。生活された時間が長いので昔からの事等、支援を貰っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしている。カルテの閲覧は自由に行っている。家人と利用者様の訴えを聞き対策に支援していくようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	現状の報告。色々ホーム行事への参加の依頼。家族と利用者様の会話ができるように心掛けています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話での連絡をしている。状況の報告(面会時)をしている。行きつけの場所、自宅近くまで出かけています。馴染みの品物を近くに置く		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に声かけをする。友達をみつけてあげる。又、お互いが助けあえるようにしている。椅子等の席決めも利用者様におまかせしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用後も家族、本人がいつでも気軽に来設できる様に会話をしていく。利用者様の現状も気にかけるようにしている。年賀状を送っています。		
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位の支援に心がけている。日常会話の中での事は実行できるようにしている。担当者が希望や意向を聞き取っています。		独居の方で病院から直接入所時の方の把握。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人、本人よりの情報収集交換。利用者様の自宅訪問を行い生活をどのようにしていたか、詳しく聞き取り残している。		フェイスシート表もとに本人にも話を聞く。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の状況をみながら、アセスメント表に基づきカンファレンスを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスを行っており、本人を良く知るご家族からの気付いたことや、意見やアイデアを出してもらい担当者でカンファレンスしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化や状況に応じて利用者様・家族・職員を含め臨機応変に見直しをしている。特変時には直ぐにケアプランを変更しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族からの情報・カルテ記載・連絡ノート・カンファレンスノートで情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎の支援をしています。新規利用者様にはお試し入所をおこなっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練の実施(消防)。行事・(ボランティア)に協力を貰い、演奏・フラダンス・民謡・太鼓・三味線等をしていただきました。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他老人保健施設のケアマネジャー・ケースワーカーとの連携。希望に応じて訪問美容サービスをおこなっている。デイサービスの方のケアマネジャーとも連携を取っている。		訪問マッサージを導入した
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括のケアマネジャーとの連携も大切にし、情報入手に力をいれている。		運営推進会議に参加していただく予定です
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週一回 ホームのかかりつけのお医者様がいます、往診。状態悪化・急変時には直に往診の依頼。電話での対応もして頂いています。かかりつけ医により必要に応じて紹介提供		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームドクターが専門医である為、常に相談できます。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医学管理は看護師が責任を持ち行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	制限はしていない。希望があれば対応します。必要に応じて連絡・調整を行っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームドクターより本人、家人への説明を行っている。気持ちが暗くならないように、精神面でのケアの実施、摂取できます。		一般の方と同じように対応。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケア実施済み。食事・清潔・家人(身内)・友達等、状況に応じて対応している。頻回の連絡もこころがけます。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	頻回に面会を行い、顔なじみになっておく。(小さいことまで)出来るだけ詳しく情報の提供を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人だけ聞こえるよう小さい声で言うか、他の言葉で会話(オムツ交換やトイレ誘導について)。個人情報の取扱いは慎重に行っています。</p>	<p>排泄に関しては、やはり小さい声で言ったり、他利用者様に分からないように。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様別の個別カルテで指示、会話や動作に変化があったりするので、見落とさない様にする。日々の関わりの中で説明、納得して頂いた状態でも何事にも取り組んでいく。利用者様個別に担当を決めており緻密な体制を築いています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の状況、訴えに対応している。(入床、起床の時間や食事の時間もその人のペースに合わせている)</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に一回、美容師さんの出張あり(カット)。パーマ等は行きつけの美容院へ行かれます。。</p>	<p>日常的に1～2名の方は化粧されるも、全員実施出来るといい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の買入。準備、盛りつけ。後片づけを利用者様と共に楽しく行なっています。食事時には軽音楽、クラシック音楽を流しております、</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>水分補給、おやつ時等に、好みのコーヒー、ジュースの提供。夕食時には希望があれば晩酌の提供をしています。個々の好みの物を提供しています。日常的に嗜好できるように準備し時に促す。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人カルテにトイレの声かけ時間を記入しています。個々に応じた、トイレ誘導。オムツ交換も時間で行っているが、その他にも状況みて適宜施行します。排泄パターンを把握し、声掛け介助を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームにはリフト浴があり重度の方でも安心して入浴いただけます。一応、曜日、時間帯は決めています。夜間の入浴希望あれば、施行しています。		その日の状態に合わせて入浴日をずらせたり、時間変更等で対応している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	イブニングケアを実施しています 寝具等(今まで使用してた物)使い慣れた物をお願いしています。頭の位置・物音・温度等に注意しています。その時々状態に合わせて対応している(牛乳・ポカリ・会話)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎週一回は外出して頂いています。個々に合わせた役割をして頂いています。年二回は旅行に行き楽しんでいます。		日々の関わりの中で個々に対応し状況に合った提供を行いたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと一緒に外出時や買い物に行きます。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・公園等の外出日を実施しています、家族と話し合いで自宅での外泊も取り入れています		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春の1泊旅行・秋の日帰り旅行(バス)と週一度の外出日		個人の希望する場所へマンツーマンで行ける事が出来たらいいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限はしていない。希望があれば対応します。		年に2回位(夏・冬)だけでも、ハガキが送れるように。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限をしていないので、いつでも面会できる。ご家族など気軽に来所出来る雰囲気作り(利用者様の居室や食堂で過ごせる様に、椅子等の配置。ゆっくり話が出来るように、お茶を出したりする。)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束していない、頻回の教室訪問。事前に行動を起こす人には声かけ実施。個々の状態把握をする様に心がけている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はかけていません。玄関は必要に応じて開閉しています		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、利用者様を目に入れている。職員の配置の実施。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	場所によっては危険物を(特に台所)スタッフルームに入れる。鍵をかける(夜間のみ)。手荒い石鹸、消臭剤等は夜間は片づけ、朝出す(必要時はその都度)。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントの勉強会確認。床等、水滴で濡れていたら、すぐ拭く。物品の配置の確認しています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習会に参加しました。それぞれの事態に応じた訓練とマニュアル作成。マニュアルはスタッフの目の着く場所に貼ってある		定期的に応急処置や緊急時の研修(施設内)で行う
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の実施(年1回)。自治会、Drとの連絡を施設から行うように現在進行中。		防災訓練は年二回は行っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に説明はしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタルチェック実施。日常の利用者の体調の変化に目を配り、観察し、カルテ・連絡ノート・申し送り等で情報の共有化を計っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による薬の目的や副作用等の説明があり、状態変化の観察の指示などをうけている。誤薬のないように心がけ、服薬後の変化の経過観察。少しでも変化があれば、看護師に報告し対応する。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の調理方法や日常的に散歩を取り入れ、適度な運動・体操などにも取り組んでいる。チェック表にて、排尿・排便の確認を行い便秘時には、対応している。(食物繊維の多い物や牛乳・ヨーグルトなど摂取)		その人に合った便秘薬の提供など(看護師と医療機関で相談のもと)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。自立の方は自力にて、要介助の方は援助にて行い、磨き残しがないかチェックし薬剤にてうがいを行っている。(口腔内の状態の把握)。食事前に、唾液の分泌・飲み込みが良くなるような、嚥下体操を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分補給の為にチェック表を活用し毎日3時に確認、日々の状態の把握に努めている。1日3食、一人一人に適している量を把握し、栄養バランスを考えたメニューを作り提供している。状態に応じた内容への変更に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザワクチンの予防接種。感染症予防の為にマニュアルを設置し、参照出来るようにしている。(冬のマスクの着用・手洗いの徹底。グローブの着用。施設内の換気。布団干し。掃除。等)		毎食後の食器のミルトン消毒を行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の定期的な殺菌、消毒。食中毒の時期の毎食後のミルトン消毒。常に買い物で新鮮な食材購入に心掛けている。		むぎ茶・ポカリスエット等の飲料は、その日で処分している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の人に親しみやすいように、駐車場の奥の玄関を明るく開放的にし、季節の花や木で優しさを出し、段差もなく出入りしやすい工夫をしている。駐車場を町内回覧板として活用しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅地に位置し、車の通りも少なく、又、建物の前後に高い建物もなく、採光も適当で、その時々合った音楽を流し、花を生けたりして、居心地の良い共用空間作りに努めています。すぐに庭に出入りできるようになっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆でお話をしたり、気のあった利用者同士で居室の訪問が自由にできるように心配りをしたり、ゆっくり座れるソファで過ごせるよう工夫、配慮している。好きな場所に座れるようにイスも置いてある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで、ご本人が使い慣れた物を使って頂き、ご本人が居心地良く自分の部屋として過ごして頂けるよう、家具等の配置は本人や家族と相談したりして、使い勝手の良い配置に心懸けている。季節の変わり目ごとに、衣替えをし整理整頓に努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物全体と各居室ごとにエアコンを設置し、使用期間はこまめに温度設定の確認を行っている。日中は出来るだけ各居室やフロアや玄関の扉を開け、空気の入換え、換気、温度調節、乾燥、湿度調節に心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、トイレ、浴室、玄関まで段差をなくしている。手すりを廊下の両サイドに付け、利用者目線で、手すりの高さを低く設置している。廊下に障害物が無いようにしている。トイレの補助レバーを設け、出来るだけ自分の力(身体機能)を活かしたり、利用者様、一人一人の残存機能に対して個別のケアの実施。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	行動を行う際には、必ず、言葉掛けを行い、説明し、見守りが必要な場合は見守りを行っていく。スタッフ一人一人が利用者様の、出来ること、出来ないことを見極め、それに見合った力を活かし、共生できるよう努めている。(家事・洗濯・台所等、一緒に作業し、コミュニケーションを計り、自分で出来ることはやっていただいている)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には、プランターで花を育てている。洗濯干しや、日光浴が出来る。庭の畑で野菜を育てて、一緒に収穫を楽しんだり、花に、水をあげたりしている。天気の良い日には、庭でお茶を飲みながらくつろいだり、談話するときもある。		

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るく、楽しく、感動的に利用者様と一緒に日々、過ごしていきたい。